

人間ドック結果報告書の見方

◇ 脳 MRI ・ MRA 検査（脳ドック検査）

MR 検査は、磁気を利用して体内の臓器を画像化する検査です。検査は痛みを伴わず、X 線を使用せず、脳内の断層画像を得ることができます。自覚症状のない初期の小さな脳梗塞や、脳卒中の原因となる動脈硬化や動脈瘤の有無などを画像によって確認することができます。但し、検査時間が比較的長く、大きな音がするのが特徴です。

◆ 脳実質

脳 MRI 検査は、頭蓋内の断面を画像化して、頭部の病変の手がかりを調べます。症状の伴わない『無症候性脳梗塞』や『脳腫瘍』、『脳出血』などの疾患を発見できます。

◆ 脳動脈・頸動脈

脳 MRA 検査は、脳の血管の様子を立体画像で診断できます。脳 MRA は死亡率の高いくも膜下出血の原因である『脳動脈瘤』、『脳動脈の閉塞』などを発見できます。

【主な所見】

無症候性脳梗塞	症状を示していない脳梗塞です。大半を占めるラクナ梗塞は、主に高血圧によって脳の細動脈が動脈硬化を起こしてしまうことが原因であると考えられています。
虚血性変化	脳のごく一部への流入血液量が減少し、虚血に陥っていることが推定されます。
加齢に伴う変化	年齢相応の脳や血管の変化のことです。

副鼻腔炎	別名、蓄膿症と言われます。鼻と耳の炎症の程度がわかります。
脳動脈瘤	脳動脈の一部が限局性に拡張したもので、くも膜下出血の主な原因となります。
脳腫瘍	脳腫瘍とは脳や脳の組織に取り巻く腫瘍の総称で①脳および脳神経、②脳神経、③脳保護膜、④下垂体の発生部位によって種別されます。

◇ 高次脳機能検査（脳ドック検査）

記憶力、計算力、見当識障害の有無、意図した運動を実行する能力等、高次な脳機能を検査することにより、認知症の早期発見を目的としています。米国式の『Mini-mental State Examination (MMSE)』、日本式の『長谷川式簡易知能評価』を組み合わせることにより、総合的に判断します。